

■二輪車販売の実務と情報

ヤマハニュース 11

YAMAHA NEWS NO.113 '72 NOV.



◆ニューカラー

DT250

登場!!

世界GP250cc級チャンピオン ★J・サーリネン選手来日★

11

月のス。ポーツレジャーハイライト

スケジュールは、天候その他の事由により変更されることがあります。事前に連絡先にお問合わせください。

ゆく秋を追って——
西に東に思いつきりツーリングを楽しんで走りまわる若者。
北の地方では、もうそこまでやってきている冬の足音をききながら、残り少ない今年のオートバイシーズンを楽しんでいるお客さまも多いことでしょう。

今年一年、思えば全国にずい分多くの若いモトクロスライダーと期待のホープを誕生させてきたトレール杯争奪モトクロス選手権シリーズも、各地で最終戦、はなやかなブロックチャンピオン大会が行なわれています。

カレンダーもあと残り一枚を残すのみとなりました——
秋から冬への、お客さまのお車のご配慮もお忘れなく——
また、来シーズンのTCMSに賭ける若いお客さまには、オフシーズンのマシンづくりなどもあることでしょう——
どうぞご拡売におはげみください。

1 水
2 木
3 金 文化の日

	▶競技会	▶会場	▶主催	▶連絡先
4 土				
5 日	TCMS東北ブロック大会	仙台テクニカルハイランド	ヤマハ発動機仙台支店	(0222)94-6121
6 月	TCMS岐阜第8戦	トレールランド岐阜	ヤマハ発動機岐阜営業所	(0582)72-2110
7 火	TCMS三重第10戦	トレールランド津	第一自動車株	(0593)31-7321
8 水	TCMS北陸チャンピオン決定戦	トレールランド金沢	ヤマハ北陸	(0762)51-1161
9 木	TCMS大阪奈良第5戦	トレールランド八日市	ヤマハ発動機大阪西営業所	(06)538-7331
10 金	TCMS福山第5戦	トレールランド府中	ヤマハ発動機福山営業所	(0849)22-5445
11 土				
12 日	TCMS九州チャンピオン決定戦	トレールランド星野	ヤマハ発動機九州支店	(092)41-3606
13 月	TCMS兵庫第5戦	トレールランド淡路	ヤマハ兵庫株	(078)251-3561
14 火	TCMS山陰第5戦	トレールランド山陰	ヤマハ島根株	(0852)21-0750
15 水	全日本選手権第10戦東北モトクロス	仙台テクニカルハイランド	MFJ東北地方本部	(0222)48-5747
16 木				
17 金				
18 土				
19 日	TCMS中部最優秀決定戦	トレールランド員弁	ヤマハ発動機名古屋支店	(052)913-2121
20 月	TCMS山口第5戦	厚保サーキット	佐々木モータース	(0836)21-8181
21 火				
22 水				
23 木 勤労感謝の日				
24 金				
25 土				
26 日	TCMS中国チャンピオン決定戦	トレールランド広島	ヤマハ発動機大阪支店	(06)538-7331
27 月				
28 火				
29 水				
30 木				
12月				
3 日	TCMS関西チャンピオン決定戦	トレールランド八日市	ヤマハ発動機大阪支店	(06)538-7331
10 日	TCMS岐阜最終戦	トレールランド岐阜	ヤマハ発動機岐阜営業所	(0582)72-2110

12月



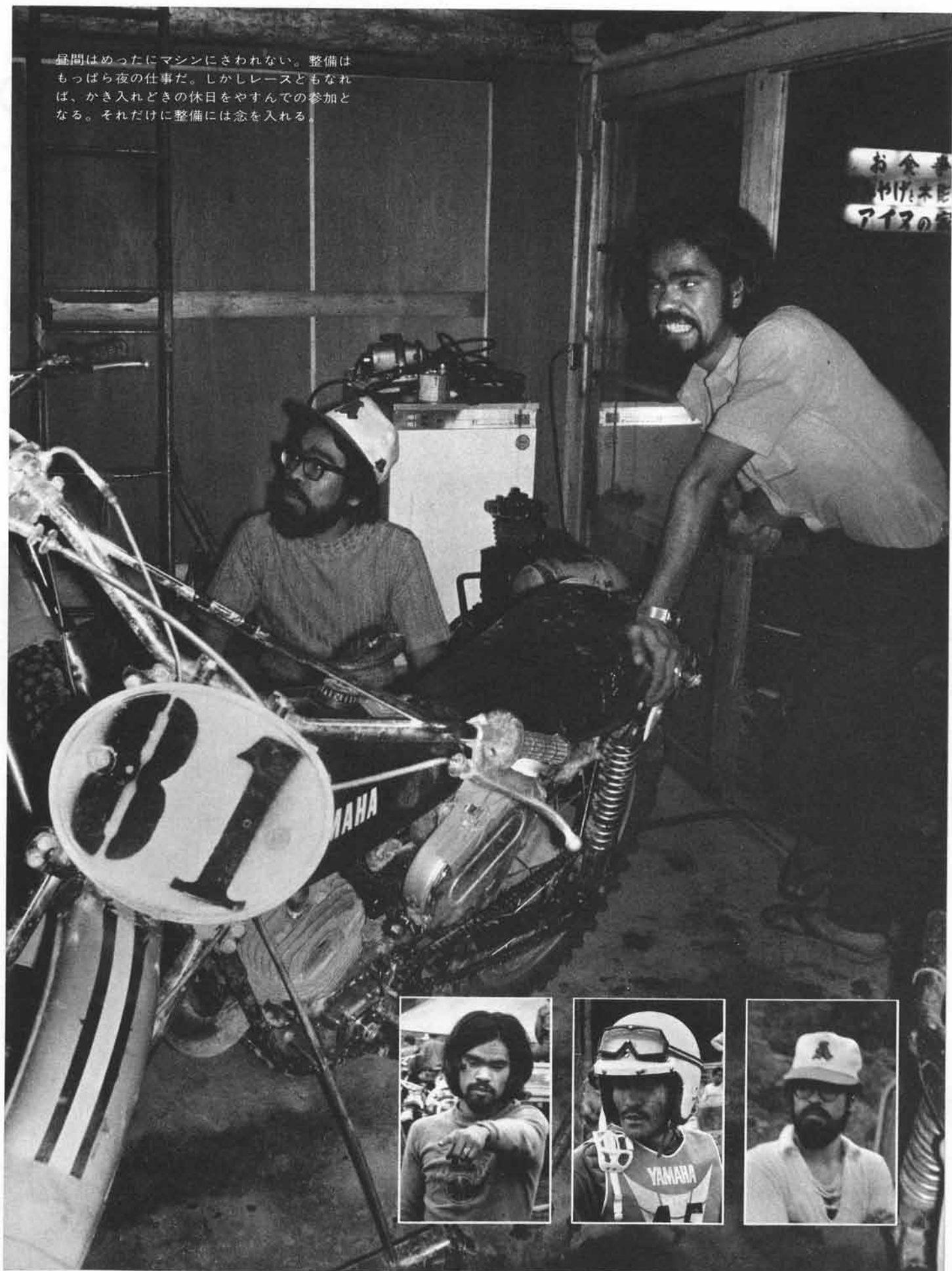
アイヌモシリ(アイヌの家)の
熱烈的

TCMS モトクロス兄弟

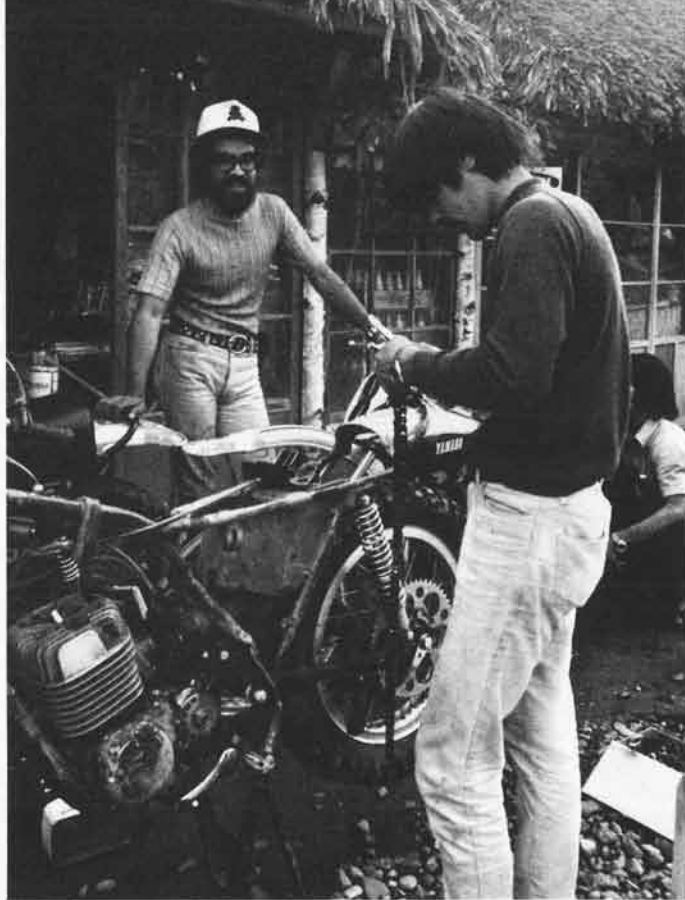


みんなで楽しいモト
クロスを、今春か
らスタートしたヤマハ
の新しいSL(スポー
ツレジャー)活動、T
CMS(ドレール杯争
奪モトクロス選手権シ
リーズ)は、各地でさ
まざまな話題をつくり、
新しいスターを生んで
いるが、これは北海道
上川郡上川町に「アイ
ヌモシリ・アイヌの家」
を営む伊沢修一さん一
家の、兄弟そろっての
熱烈的参加ぶりである。
来年はアイヌモシリか
ら新しいチャンピオン
が登場するかもしれな
い。

昼間はめったにマシンにさわれない。整備はもっぱら夜の仕事だ。しかしレースともなれば、かき入れどきの休日をやすんでの参加となる。それだけに整備には念を入れる。



自家用のトラックにマシンをのせて会場へ。



▶秋は日が暮れるのが早い。まだ明るいナ、と思っても、すぐに暗くなる。店で手ばやく、要領よく整備するコツものみこんだ。

▶「オイ、調子はどうだ」スタートを目前にしてピットで最終調整。



▶北海道でもTCMS戦はすでにおなじみ。大きな宣伝をしなくとも、レース当日はご覧のように人垣がつけられる人気だ。



〈お父さんを総監督に〉

「その昔、わたしもハーレー二〇〇のサイドカーで走りまわった。もう十年若かったら若いもんには負けやしない——」

と、息子たちの整備ぶりをかたわらでやさしく見守りながら語るのは、本年五十七才の伊沢正春さんである。

「うちのオヤジはいじつぱりだから、やるからにやアツといわせることをやるだろう」と、長男の修一さん(25)も否定はしない。

伊沢さん一家は、お父さんの正春さんを総監督役におき、長男の修一さん、次男の秀治さん(22)、三男の正光さん(19)の三兄弟がチームを組んで、この春からスタートしたTCMS戦に果敢な挑戦を試みている。その意気込みがかわれて、旭川にベースをおくYRG(ヤマハレーシンググループ)にも加入することができた。

北海道のTCMSは七戦シリーズ。修一さんはノービス125、秀治さんはノービス250、同オープン、正光さんはノービス125、同オープンにエントリーしてきたが、途中で修一さんはディレクター役として手腕を発揮、ふたりの弟さんのレース参加によりき情報を提供して成績の向上につとめている。

〈練習量が少ないのがタマにキズ〉

ところで、マシンであるが、MX125が二台に、MX250が一台、それにHT90と不足はな



◀最初のレースはノービス 125ccクラス出場の正光さん。「おちついていけヨ」と秀治さん。

▼それッ、とびだせ、ゴー。

▼「どうだ、ウチの連中は……」と、お父さんと修一さん。

▼変わってこんどはノービス250ccクラスに秀治さんが出走。



い。そこで連戦の成績は？ ということになるのだが、これはここでは問うまい。というのも、もつともキャリアの深い人というのが修一さんだが、モトクロスを初めたのは昨年の秋のことであり、正光さんはTCMSが最初のモトクロスの体験なのである。まずは参加することに意義があり、経験を積むことがまず先決というわけだ。

「うちの連中は可哀そうだよ、夏場の絶好のシーズンは家の仕事で忙がしくて練習も出来ない。勝てるはずがないさ」

これはお父さんの発言だが、それでも、そこは若さと家族あげての連帯感で、レースともなると、夜遅くまでマシンをバラし、組立てに一生懸命である。

〈雪の季節はスノーモビルだ〉

北海道の夏は短い。全国十一ブロックに分けて行なわれたTCMS戦で、北海道地区は最終戦を十月十日に終了した。

そしてこれからは雪の季節となる。モトクロスサーとはしばらくお別れとなるが、かつて登場するのは、「新しい冬の発見」として最近とみに人気をあげてきている「スノーモビル」だ。

伊沢さんはアイヌの民芸品として名高い木彫熊、ペンダント、レリーフの製作販売を手広く営んでいるほか、層雲峡温泉に旅館ユーカーラ荘をもち、「ヤマハスノーモビル」三台を所有してレンタルも行なっている。



▲雑念払拭！ ただ精いっぱい走るのみ。最終コーナーを巧みにやり過ぎてラップを重ねる。

▼TCMS戦は終わった。冬はかけ足でやってくるぞ。いよいよスノーモビルの出番だ。これなら実務に合わせて乗りこんでいるから、ちょっとばかりうるさいヨ。

「ヨーシ、行け、行け」コース内側に陣取って無言の応援。「レースに出るからにゃ勝たねばならん。しかし、ぶっけ本番ではナ……」は総監督の声。



「冬のSL行事として、スノーモビル・レースが組まれば、これはこれでバッチリといけるのだがな」
伊沢さんの胸の中には、この新しい名のスノーレジャーの主役「スノーモビル」をいかに生かすか、はやそのプログラムが構成されているようである。
TCMSを終わって、「スノーモビル」の整備に取組む伊沢さん一家に、冬のSLを先取りする姿勢が、よく感じられた。

グランプリロードレース!

ラス中10クラスを制覇



TR3で快調にとばすセニア251cc以上クラス優勝の小田豊選手(プレイメイトレーシング)、彼はAX125でセニア125ccにも優勝2クラス制覇で、GPセニアの最優秀選手に輝いた。



▶表彰台からグラウンドスタンドの大観衆の歓声に応える小田豊選手(右)と、セニア251、125の2クラスに2位の高井幾次郎選手(左)。

絶好の秋日和にめぐまれた10月14、15日の両日、秋の恒例「日本グランプリロードレース大会」(主催MFJ)が、鈴鹿サーキットに2万人の観衆を集めて行なわれた。

★★★★

今シーズンのMFJ全日本選手権ロードレースは、車輛規定の変更によりノービスクラスからTD3、TR3などという市販レーサーの使用が認められたことで、ノービス、ジュニア、エキスパートジュニアの若いライダーたちの大巾な記録更新が目立ち、ロードレースの世界に新風を吹き込んできただけに、シリーズ最終戦のこのグランプリが大いに注目されたものであった。

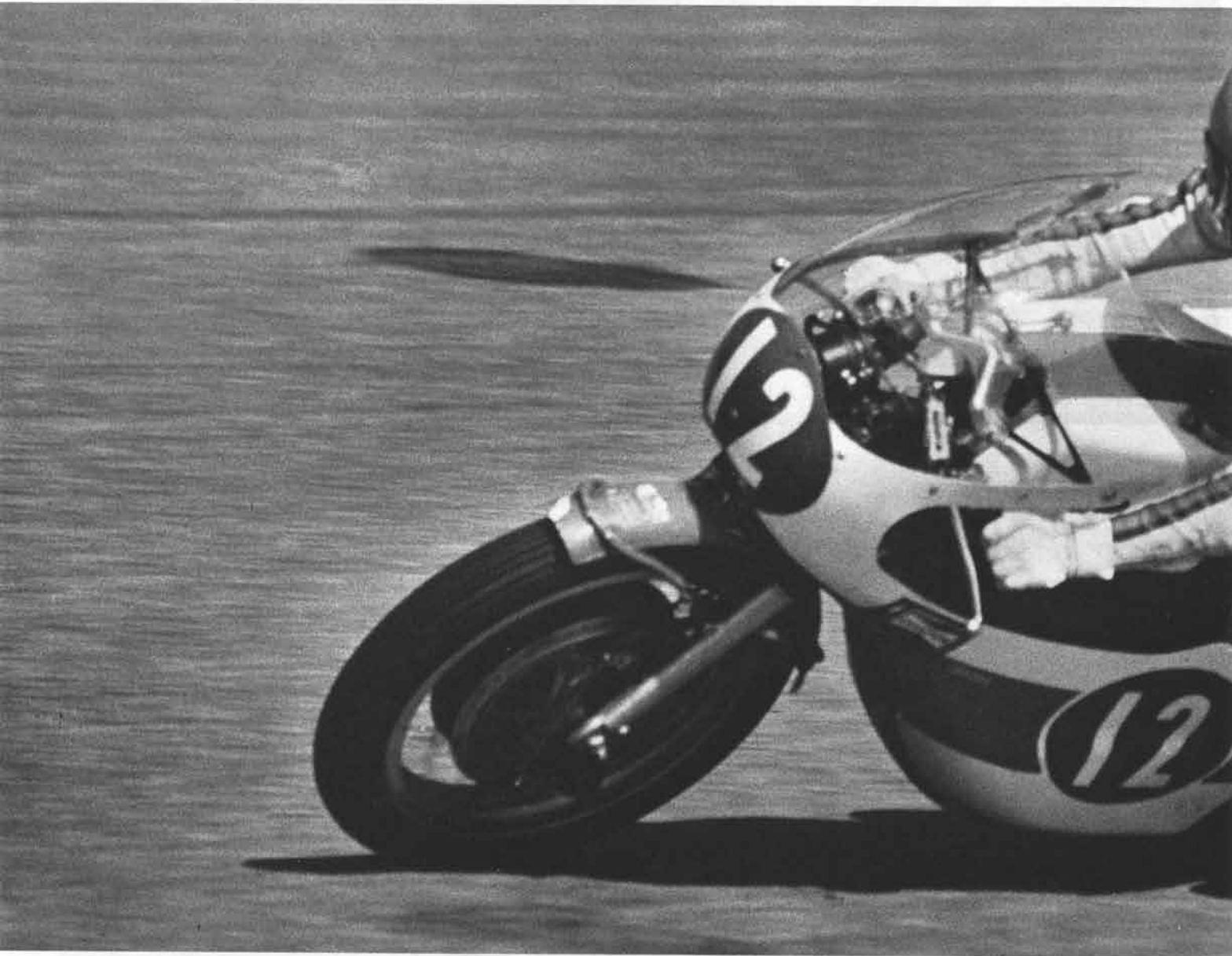
いっぽう今年からは、自由改造部門のフォーミュラーリブレクラス(セニアのみ、ほとんどはワークスマシン)も新設され、プロダクションマシンとワークスマシンのレースが区別されたのも興味深いところであった。

さてレースは、ノービス90、125、250、251cc以上、ジュニアの90/125、同250/251cc以上、エキスパートジュニア、セニア、フォーミュラーリブレの125、同250/251cc以上の8レース15クラスにわたり争われた。

そして、フレッシュなレースぶりが人気のジュニア部門では、HX、AX、TD、TRとオールヤマハで登場の神戸木の実レーシングの若武者たちが、ジュニア全クラスを制覇すれば、セニアでは東南アジアでも大活躍のプレイメイトレーシング小田豊選手が125、251ccの両クラスをものにし、そしてフォーミュラーでは金谷秀夫、河崎裕之のヤマハペアが水冷ヤマハワークスマシンを駆ってロードレースの真髄をみせつけたりの大活躍。

ことしもまた、メインイベント「日本グランプリ」は、15クラス中じつに10クラスに優勝というヤマハ車ライダーの手によってはなやかにいろどられたものであった。

新鋭の活躍光る '72日本 ヤマハマシン15ク



▶フォーミュラーリブレ125ccで、その速さを
まざまざと見せつけた河崎裕之選手と水冷
ヤマハ125cc。



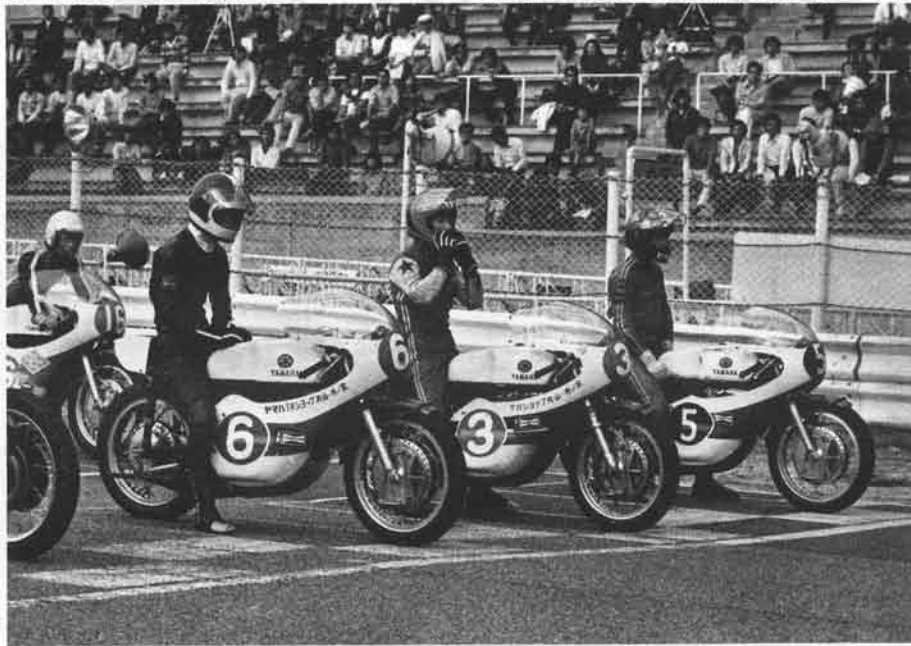
▶つめかけた2万人の観衆をもつとも湧かせ
たのは、セニア125ccでの②小田選手と①高
井選手の2台のAX125のデッドヒート。こ
うしたシーンが、一周目から最終周までつ
づいた。





◀ やったアー！ 250で250/251cc以上に総合優勝の片山選手(右)、彼は今シーズン、出場5戦に全レース優勝という快記録を打ちたてた。(左)は、ジュニア90と251cc以上の2クラスに優勝の大本十生選手(いずれも神戸木の実レーシング)。

▼ TD3、TR3をはじめオールヤマハで90から251ccまでのジュニア全クラス制覇をめざす神戸木の実レーシング。ジュニア250/251ccでもスタート好位置を独占。



’72日本グランプリロードレース!



念願の「ジュニア全クラス制覇、最優秀グループ賞獲得」なって快勝に酔う神戸木の実レーシングのメンバー。

いずれもTRショップ片山マツダヤマハスポーツコーナーをベースに、モータースポーツに打込む若者たちだ。

▼GPの恒例、もっとも美しいデザイン、カラーリングのマシンに贈られる「デザイン賞」は、昨年に引きつぎ、ことしもヤマハTR3に決まった。



▼若いモータースポーツファンは、レースばかりかマシンにも絶大な関心をよせている。ヤマハチームのビットは、終日人垣の絶え間がないほどだ。



TD3で250ccながら、350、500、750のビッグマシンを推して総合優勝に向かいひた走る、ジュニアのエース片山敬済選手。ジュニア250ながら2分34秒台という驚異的なラップを叩き出した。



東京ヤマハオート一家 マイナス 外出中の営業員、のみなさん。中央が千手社長右端は社長の右腕橋戸道夫専務。



こんにちは……
ヤマハ
……です

SL時代を予見して わが社はヤマハを選択した

東京都立川市錦町三―五―二三

●東京ヤマハオート株式会社

それじゃあ土地柄、英語もおはなしになるのでは？……と伺ったら「いやいや、センセンだめです」と大真面目におっしゃった。
それじゃひよつとして、わたしと同類項だな、ヨカッターと内心思っていたら、見事にこの期待（!?）裏切られた。英語、ベラベラのベラなのである。
店頭へんな外人がきて「ハロー・ジミー」などというから誰かジミーかと思っていたら、これが英語センセンだめな筈の千手昭利社長さん。
二カ国語を話す人は二カ国人になれる、とは有名な言葉だが、千手社長さん一つの顔で二カ国人を演じ、両国にドンドンとヤマハを売りまくっているのです。



二階が事務所、一階はショールームと修理工場になっている



商勤のいいジミーと千手昭利社長さん

＊思いきった賭けが大あたりした！

店名、東京ヤマハオート。立川駅から車でものの二三分。往來の激しい街道に面した店舗が、すぐに目につく。店頭に立つとガラスの壁面に、あるいは床面に、ヤマハ、ヤマハの文字がいっぱいだ。

このお店が生まれたのは、昨年一月である。お店の歴史はまだ浅いが、陣頭指揮に立つ千手社長のオートバイ歴は長い。

ものごころついて以来、といつては大げさになるが、オートバイ業界とのつき合いは昭和三十一年くらい。オートバイ・メーカーの名打ての営業マンとして、その筋には知られた人だ。

一社を構えて新しく出発するに際し、思いきってヤマハ一本にしほりこんだときは、一世一代の賭けをする心地だった、と社長さんは、當時を回顧する。

「むかしは、オートバイというのは、いわば中年の足でした。しかし、オートバイをずっと扱っているうちに、二輪の在り方は必ず変ってくる、とと思ってましたよ。

若い人の利用者が増えて、スポーツ・レジャーは向いていく……こういうことは、当時業界でも、まだ手探ぐりの状態でしたが、わたしはやはり、そういう方向にいくだろうと思っていましたね」

業界でそつ先して、スポーツ・レジャーを

志向するヤマハ・オートバイが登場したとき、若い人のセンスに訴えるオートバイが、やっと現われた、と社長さんは思った。そして、これこそお客さまの欲しがっているオートバイだ、と思ったのである。

もちろん確信はなかったし、不安がいつばいだったが、会社を設立するにあつたつて、一世一代の賭けをするつもりで、社名を「東京ヤマハ・オート」と命名した。

創立くらい、営業成績はバツグン。多摩地区第一位の栄冠は、長い経験から培かれたこうした先を見する眼力と、一本筋の通った営業姿勢と、強いギャンブル運(?)によるものかもしれない。

＊海の向こうで莫大な人気

東京ヤマハオートには、外人さんがよくやってくる。横浜基地に面した、かなり広びろとした支店は、もっぱら外人専用だ。

国民性なのかどうか、機械いじりの好きなアメリカ人の、ヤマハ・オートバイに対する人気は、たいしたものだ。二五〇cc、三五〇ccなど、大型のスポーツ・タイプが、もっぱら出廻る。エネルギーで、購売力もある基地の住人は、東京ヤマハオート横浜支店の唯一絶対の顧客である。

しかも、お客さんは金網の向うの小さな外国だけではない。アメリカ本国から、個人的な注文がワンサとくる。



横田支店は外人客がもつばら。大型のスポーツ・タイプが絶大な人気。



立川店一階奥は整備場



横田支店は、大のヤマハ・ファン、オールデン・カーハート君（26才）が一手にとりしきっている。



店内はヤマハ一本でスッキリ。

サテ、多摩地区売り上げ第一位という成績のコツはどこにあるのか、この辺を探ってみた。何かとつもないアイデア、強力な営業方針とかPRがあるのだろうか。

東京ヤマハオートのPR経費は、年間売上げの四〜五％。やるときは思いまっつてズバリ金を使う。

しかし、大切なのは、やはり、人間対人間のつき合いの強さだ、とおっしゃる。

＊お客さま本位ひとすじ

現在のところ、売上げの六割は外国向け、国内向けは四割というところだが、この数字を今年は五対五に、来年は四対六にと逆転させたい、とおっしゃった。

もつとも円の再切り上げもささやかれている今日この頃である。「営業姿勢は、徐々に国内市場を目標にしていかなければ」と社長さんはおっしゃった。

こうした熱心な姿勢が、遠いアメリカに東京ヤマハオート・ファンを持つゆえんなのである。

真面目なアフターサービスに、人間的つき合いをプラスした濃度の高い顧客とのつながりが、外国にまでたくさんのお客を持つ底力となった。日本駐留を終えて、無事本国に帰った彼らに、東京ヤマハオートは、新車の案内、クリスマス・カードと、商売の内外を越えて、交流を絶やさない。

「お客さまが欲しいものが、商売のコツは」

とり立てて、はなばなし作戦があるわけでもないし、口に出していえるような営業方針があるわけでもない、とおっしゃる。

どんな商売も同じだろうが、商売のコツは「お客さまが欲しいものが、商売のコツは」察知して与えてあげること」だと、社長さんはおっしゃった。

お客さまは気まぐれ。いつ、何が、どんな形でブームになるか、いつ、何に飽きてくるか、一年間の見通しなどはとても利かない。

だから、しよつ中、業界の流れを、お客さまの好みを観察して、そのときどき、最も必要と思われる販売方法をとっているだけだ、とおっしゃった。

あえていうなら、千手社長の営業方針は、お客さま本位ひとすじ、というところだろう。お客さまの要望にこたえて横田支店を設立したが、またお客さまのたつての希望で、日曜日も交代制で営業している。

いずれにせよ、オートバイの乗り心地、あのファイリングは乗った人にしかわからない。二輪の免許取得が、厳しくなつたが、オートバイ・ファンがなくなるということはあり得ません。しかも多摩地区は、やはりこれから光りを浴びる地区ですし……と、社長さん、今後の見通しに、厳しさを秘めながらも、かなりの自信のほどをちらつかせておられた。

★★★★★ Champion's Holiday in Japan — J.Saarinen ★★★★★

世界GP250cc級 チャンピオン ヤーノ・サーリネン選手が来日



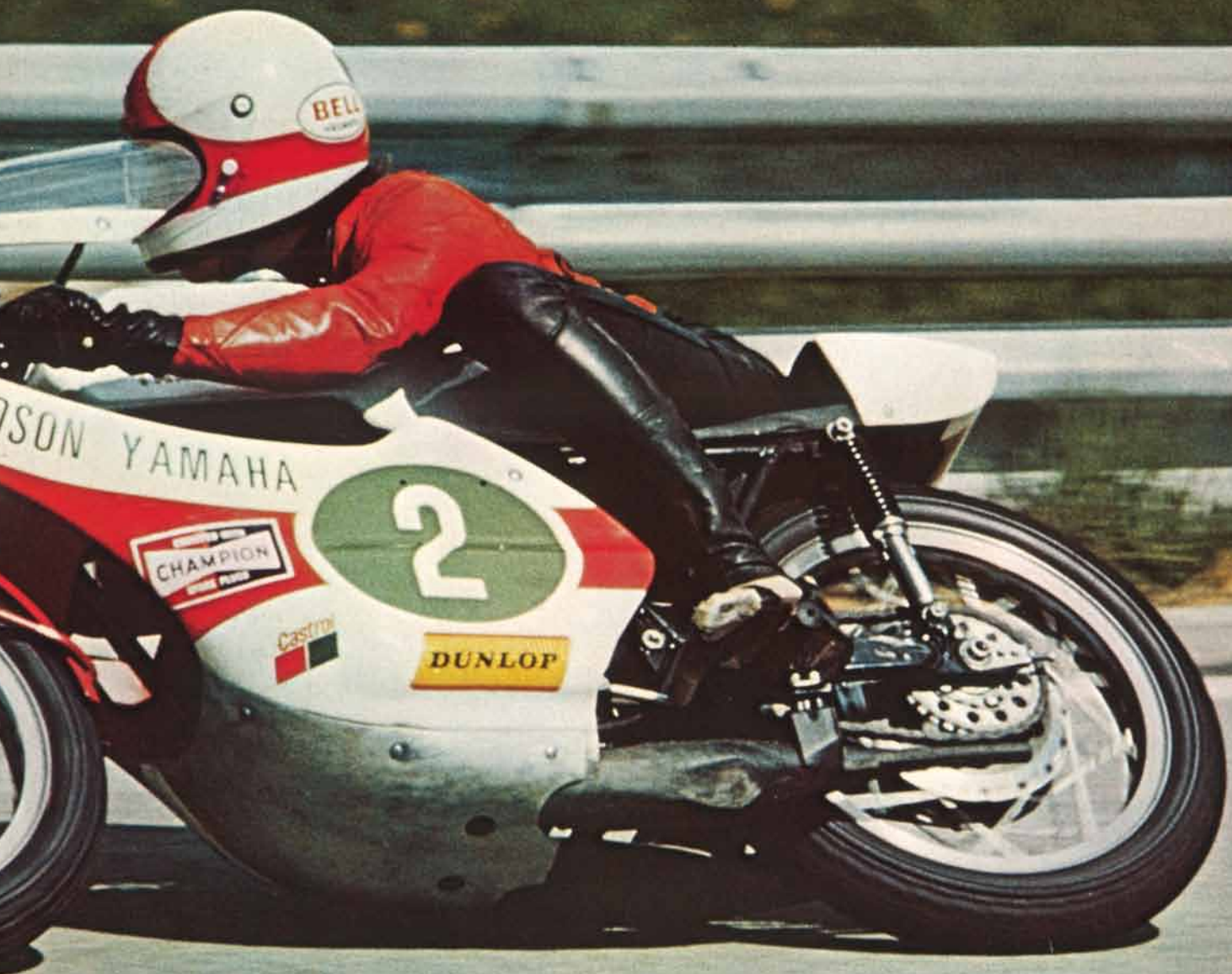
▲いつもは見られる立場にあるが、きょうは観客の立場。鈴鹿サーキットのパドックで

◀ 浜松グランドホテル晩の間における記者会見。日本の印象はと聞かれて、車の数の多いのにまず驚いた……と



ヤマハ250レーサーで、本年度の世界GPレース250cc級のチャンピオンシップを獲得したヤーノ・サーリネン選手が十月十二日、奥さま同伴で来日した。

翌十三日には、はやくもこのニュースをキャッチした業界報道関係者と記者会見、このあと日本グランプリロードレース見学のために鈴鹿サーキットへと足を運んだが、ここでも世界チャンピオン来ると大変な人気。セレモニーで日本のファンへ来日のあいさつをおくり、拍手を浴びました。



チャンピオン「フライング・フィン」の走りっぷりはきわめてダイナミックである

サーリネン選手は今年二十六才のフィンランド人。身長一七二センチ、体重六十三キロの、どちらかといえば小柄な感じの人。

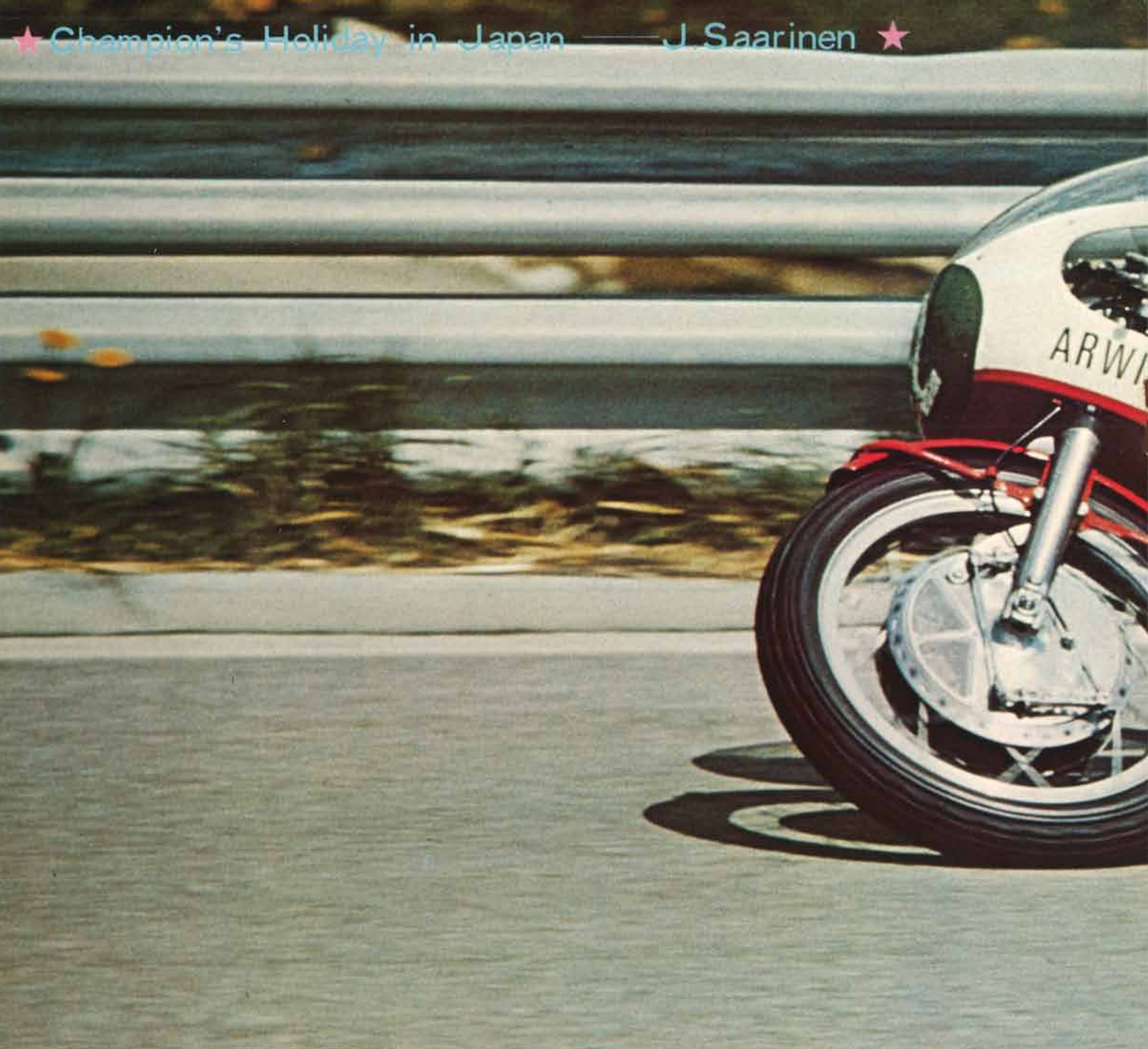
レース経験は十年前にアイス（氷上）レースに参加したのが初めてというが、'69年からヤマハに乗るようになった。

世界GPへの参加は'70年からで、この年はTD2でランキング4位に名をつらね、注目を浴びた。そして昨年は250cc級で3位、350cc級で2位を獲得、いちやく世界のトップ・ライダーへの仲間入りを果たした。

本年度の成績は13回シリーズの10戦に参加して四優勝、2位二回のベスト・ポイントをあげ、みごと期待のチャンピオンシップを獲得したものである。また350cc級では8戦して三優勝、2位二回、3位二回、4位一回の成績で、前年同様ランキングの2位を確保している。その走法はダイナミックで、フライング・フィン」とも呼ばれている。

当初の予定では、日本グランプリに特別参加するスケジュールも組まれていたが、日本グランプリがナショナルレースであることから、この計画は中止となった。勝敗の行方は別として、世界GPのチャンピオンが日本で走るのは五年ぶりのことであり、残念に思ったファンも少なくないことであろう。

なおサーリネン選手は東京モーターショーを見学して帰国、来シーズンもヤマハでチャンピオンの王座を守る予定である。



ファンがさっそく駆けつけて、ヘルメットにサインのサービス



日本GPの会場で、ファンに挨拶。レースとモーターショーの見学が楽しみとか



ようこそ日本へ。畑第二研究部長と握手を交わすサーリネン夫妻

ニューカラー

ヤマハトレール

DT250

さきに追加されたHT90、AT125ニューカラーについて、「ヤマハトレールDT250」にもニューカラーが登場しました。

性能、仕様、価格等には変更がありませんが、黒に白フチの線引きタンクを採用し、さらに商品の魅力を高めています。

ニューカラーはコンペティショングリーンと、パールイエローゴールドの2色です。



YAMAHA TRAIL DT250

246cc トルクインダクション方式 23P S /
7000rpm 2.45kg-m / 6000rpm 5速リター
ン プライマリーキック 119kg



世界一 YAMAHA

YAMAHA NO.1 DI DUNIA

ヤマハ ノンボル・サト デ ドゥニア

インドネシア・レース界のホープ、若きヤマハ・フレンドの一行がこのほど来日、ヤマハコースで思いきり羽根をのぼし、日本のトップ・ライダーとの交歓を重ねた。

「ヤマハ ノンボル・サト デ ドゥニア(世界一、ヤマハノ)」「MESIN 2 TAKT No. 1 YAMAHA (2サイクル・エンジン ナンバー1・ヤマハノ)」インドネシア・レース界の実力ナンバー1選手の呼びかけは、現地の需要を大きくほり起して話題となっている。



ブレイメイトレーシングチームの代表者・河崎裕之選手を囲んで、ヤマハコースのレーシング走法の説明をうける。



親指をつきだしてNo.1を表示しながらヤマハコースを走る。完備されたコースに、さすがヤマハと感嘆の声をあげた。



ベン選手



ベニー選手

インドネシアは国としてもいま伸び盛り。それだけに経済活動もかなり活発で、二輪車市場も大きな伸張率をみせている。なかでもヤマハのシェアアップはめざましい。

これは高品質・高性能の商品にプラス充実したサービス体制、そしてレース界における圧倒的なつよさが大きく寄与している。

「ヤマハ ノンボル・サト デドゥニア（ナンバー1・ヤマハ）」の声は、大小一万余千というインドネシアの島々にひびきわたっているのだ。

YAMAHA NO.1 DI DUNIA

高井幾次郎選手もかけつけて、世界最強の市販レーサーを前に楽しい交歓。



まずはお手本と、レーシングスーツに身をかけた高井幾次郎選手に、ヒヤヒヤの歓声がとんで、ちよっとくだけた瞬間。



▲性能抜群、デザイン秀逸。ヤマハはもともと人気あるマシンだ。PR映画の撮影の合間、このどかに語り合うチャチャップ、ベニー、ベンの三選手（右より）。

河崎裕之選手をトップに、ヤマハコースを疾駆する。彼等にとってはもっとも充実した時間であった。

そして今回来日したレーシングチームの一行は、人気も実力もピカ一の超一流ライダーなのである。ベニー、ベン、チャチャップの三選手はヤマハ・トリオとして絶対のつよさを誇っているのだ。

この三選手にブレイト、サスワンドのメカニックも加わって、一般市販車のPR活動に一役かったほか、インドネシアGPですでに顔なじみの高井幾次郎、小田豊のブレイメイトレーシングチームの面々と、総大将河崎裕之選手らのコーチをうけて、ヤマハコースにみごとに走りっぷりをみせた。

また一段と上達した彼等が、現地に新しい話題を提供するのも時間の問題であろう。



チャチャップ選手

足はヤマハで迅速配達 ◆クラブ会長もつとめる新聞おじさん



三重県伊勢市・岩田新聞店



岩田 文男さん

赤トンボ以来のヤマハファンは全国にもたくさんいますが、YA1・YA2・YD1・YDS1・XS1・TXという、その車歴もみごとに熱烈なるお客さま、岩田文男さん(48才)をご紹介します。お伊勢まいりで昔から有名な三重県伊勢市八日市場町に朝日新聞販売店を経営している岩田さんは、根っからの二輪車ファン、それもヤマハでなければという大のヤマハファンです。自からTX750に乗るかたわら、お店の新聞配達にも10台のメイトを使用して、大いに能率をあげているのです。



◀奥さまはもっぱら四輪。若い岩田さんは絶対のらないとか…。



▲ヘルメットをかぶろう——は岩田さんのところのモットーでもある。



▲車の手入れは入念なうえにも入念に。これが安全運転の秘訣です。

米これほど便利なものは

ありませんワ!

岩田さんがはじめてオートバイにのつたのは昭和23年、中国から復員してお店の仕事を継いだときのことです。

このときいちにはやく新聞配達にオートバイを利用したものでした。「スピードがあるから配達が早くすむし、小ちやいから路地から路地へと走りまわれるし、駐車に気をつかうことがありませんね。それに何よりも乗っていることがとても楽しいんですよ!」こうして岩田さんとオートバイのつきあいをはじめたのです。

米なんでも第1号です

そして、昭和30年、赤トンボが発売されると同時に三重県下でYA1第1号車を手に入れたのがヤマハとのつきあいの始まりです。以後YA2・YD1・YDS1・XS1・TXとその車歴はヤマハの歩みそのもの。これほどの気に入り方をちよつと聞いてみました。「なんといつても、スタイルと性能、仕上げの良さが一番だということです。お世辞じやないんですよ、わたしや、オートバイ雑誌をいろいろみて研究しているんですがね、やはりヤマハは私好みの素晴らしいオートバイですよ!」

スポーツ車の先駆としていまも名高いYDS1の出た頃は、嬉しくて嬉しくて夜も眠れなかった、と目を輝かせて語る岩田さんは元気いっぱいです。



◀ 老いも若きも元気いっぱい！
お店の前に勢ぞろいした皆さん。

▼ 研究熱心な岩田さんにとっては本
屋さんは資料室といったところ。



◀ 多い人は一日に60kmを走るとか。
新聞配達もなかなか大変な仕事です。



▲ ヤングにはMR、年配の方にはメイトの50と、
年に合せたコンビネーションもみごと。

＊仕事と趣味を

両立させました

現在メイトが10台、TXが1台、MRが1台と、合計12台ものヤマハが岩田さんのところで働いています。

お店の従業員の方は全員で29名、このうち10名の方が免許をもっています。もちろん免許のない人は自転車配達ということになります。平均年齢35才という、ベテランぞろいの従業員の方々にとってはメイトでの配達はなにより足のわりになるわけですが、

「主人がね、自転車じゃ大変だろうから、一日も早く免許をとれといってくれましてね、この間近くで開かれた免許教室に行ってきた、今じゃこうしてメイトで楽に配達が出来るようになりました」

ある年配の店員さんは、二輪車に理解のあるご主人岩田さんに感謝の気持ちをいっぱいにあらわしてこう語ったものです。

＊クラブの会長さんも

やっています

岩田さんは、伊勢パールツーリングクラブのリーダーとしても多くのクラブ会員の信頼を得ています。クラブ員は現在約40名、昭和39年の創立より若いオートバイ・ファンの指導にあたっています。以前からツーリングをあきるほどやったという大ベテランですから、伊勢市内のオートバイ・ファンならだれも知らない人はいないほどです。ですからもっぱらクラブの良き親父さんとして頼りがいのある立場にあるわけです。



オートバイ歴15年の堂の入ったライディングをみせる岩田さん。

さあこれから配達に、岩田さんの威勢のいい声で明るい一日が始まる。

米あと10年は乗りたいナ

「クラブの平均年齢は22才ですから、私が一番の年配ですワ、やっぱし、そういう中になるので気が若くなりますよ。クラブの信条はなんととっても安全運転です、これだけ守っていけば楽しいツーリングが出来るはずですからね」 これまで8年間のクラブ活動も無事故できており、これがクラブ最大の誇りとなっています。これからもこの誇りある記録を大いにのばしてもらいたいものです。

毎日午前2時半起床の新聞配達は習慣となってもつらいもの、好きなお酒もあきらめて早寝に心掛けるということです。それもこれもオートバイに乗る楽しさの方が強いからでしょう。

奥さんには、「もういい年をしてオートバイのりまわすのは、いいかげんになさいよ」といわれているそうですが、岩田さんは「いやあ、まだまだ、あと10年は最低乗りたいですよ。これから先どんな素晴らしいオートバイが出るかわからないですしね。それよりもまず健康にいいですワ！好きな酒をあきらめられるのも、早起きしてTXにまたがって走る朝のあの爽快感が、なんともいえんからですよ」 お店のおじいさんたちも口をそろえて元気になったということで、大いに仕事の能力をあげているようです。

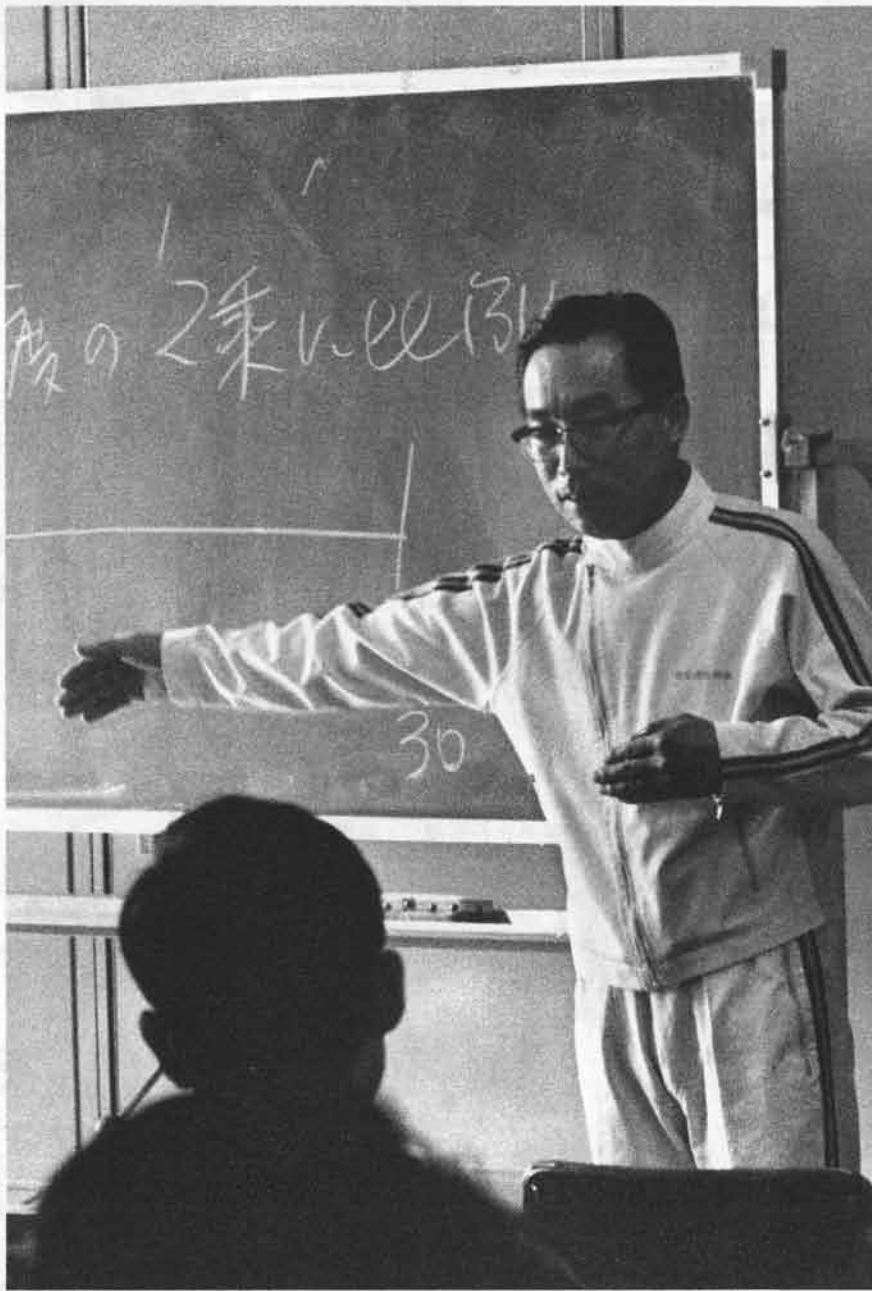
こうして今日も、夕暮れせまる街の中に、10台のメイトと共にTXにまたがった岩田さんは元気に配達に飛び出していきました。

全国初の原付免許

出張試験実施される

神奈川県

●厳正な審査のなかにもなごやかなムード



協議会から派遣された芝雅敬特別指導員。ヤマハ免許教室でおなじみの人も多い。

神奈川県二輪車安全運転推進委員会および普及協議会の主催による「原付新規免許取得講習会」が、十月十八日横浜市の県立福祉会館で開催されました。

すでに県段階での地方推進委員会が次々に発足し、二輪車安全運転普及協議会による業界側の協力体制のもとに、二輪車安全運転教育が各地で活発に展開されていますが、なかでも神奈川県はもっとも先行している地区のひとつです。今回の原付免許出張試験も他府県に先がけて行われました。

この「原付新規免許取得講習会」というのは、ヤマハ免許教室など、販売店その他を窓口として受験者を募り、その数が五十名程度にあつまれば開かれるもので、まず協議会の特別指導員が講師として交通安全教則をみっちり「特訓し」、そのあと引き続き都道府県派遣の公安委員会試験官が試験を実施、即日合否を発表するという「パッケージ・スタイル」の免許教室です。推進委員会と普及協議会の発足によって、はじめて実現を見た「官民一体」の二輪車安全運転普及の指導体制ですが、年々数十万人に上る原付免許志願者に対して組織的で、かつ実効の上る方式として、関係者の期待を集めています。

この日は、協議会の指示を受けたヤマハ安全運転推進本部芝雅敬特別指導員が講習指導にあたりました。当日受験したのは五十四人。横浜市を中心に商店主、会社員、販売店員、



▲ハイ、先生。本番前の特訓では熱をおびた質問も……。



▲地元紙に報道されたこともあってか、初回としては大成功。



▲いよいよ本番。静まる室内。



▲手際よくすすめられる適性検査。



▲神奈川県公安委員会から派遣された試験官の説明に耳をかたむける受験生。

主婦、学生などライター入門を志望する熱心な受講者ばかりです。なかには、これまで二、三回受験したがダメだったという悲願組の顔もちらほら。午前中二時間、交通法令を中心に安全運転基礎知識の講習、午後は約一時間にわたって学科試験の模擬テストと解説指導を行いました。リハーサルが終つたら、いよいよ本番です。神奈川県警免許課員二人が来場し、公式の原付免許試験に臨むことになりました。やはりチョッピリ緊張した面持ちの受験者みなさんの前で、ベテランの石川、岩崎両試験官は実には手ぎわ良く試験準備をすめていきます。ときどきうまいユーモアも交えながら、厳正な審査手続きを徹底させるこ

とも忘れていません。色神検査、指・手・足首・腰の屈伸の身体検査、視力検査、そして三十分間の学科試験が行われました。

ヤマハ免許教室卒業生は 合格率七三%!

さて、その結果は？ 蓋をあけて見ると予想以上にキビシイ！ その日の合格者は十八人。合格率三三%でした。

試験のあと受験者数人に「手応え」と感想を聞いて見ました。合格した喜び、期待が外れてガッカリなど表情は様々ですが、「一夜漬け」や「即席」の勉強だけではダメというのが異口同音に一致した感想のようです。「やはり、この間のヤマハ免許教室に出ておいてよかったです。今日の講習は、その総仕上げと整理に役立った」と合格者の一人は話していました。この日ヤマハ免許教室の予備講習を受けて来たのは十一人。そのうち八人が合格という好成绩でした。

残念組の一人嵯峨久美さん(26歳・公務員)は「交通法規をわかりやすく解きほぐして教えてもらえてよかったです。今日で二回目ですが、またこの免許取得講習に申込みつもりです。試験場」にありがちな威圧的なところがなくて落着いた気持ちで受験できたと思っていましたの……」と笑っていました。今後、各府県において展開される「原付新規免許取得講習会」を盛り上げていくためにも、販売店みなさん、業界側の協力がまたれるとところです。

九州モトクロス、トレールランド星野で開催★



トレールランド星野のコースを快調にひた走る⑥鈴木都良夫選手。シリーズ後半メキメキと調子が上がっているだけに来シーズンが楽しみだ。

鈴木都良夫セニア2クラス制覇!!

日本全国を転戦し、十二戦にわたるシリーズ戦で選手権を争う'72MFJ全日本選手権モトクロスは、去る十月十一日の九州モトクロスで九戦を終了した。(第11戦だが、二戦が延期されているため)

この日は、九州プロックのTCMS(トレール杯争奪モトクロス選手権シリーズ)の舞台としておなじみのトレールランド星野に全国の精鋭二四四台を集めて九州では今季二度目の全日本戦であった。

注目のメインイベント・セニアでは、今シーズン快調に走りつづけて「⑤鈴木秀明、⑥都良夫兄弟が二機編隊でアタマに出たらもうレースは決まり…」などという声も高い。ヤマハチームの両エースのうち、弟の都良夫選手が大活躍。

一二五ccで余裕を持ってトップをとれば、二五〇では、ベルギーから特別参加の外人ライダーをも圧する速さで、またまたトップ、今シーズン三人目という激戦のセニアクラスでの二クラス制覇をやったのけた。

なお、激しいトップ争いをつづけているランキングでは、セニア一二五、二五〇ccともに鈴木秀明選手がトップ。

一二五ccでは、二位の都良夫選手に大きく

チームメイトのJ.サーリネン選手とタイトルを争った思い出のレース、'72フィンランドGP 250cc級レース（トップがゴールド選手）。



★全日本選手権第11戦



▲堅実な速さで、激戦のセニアを闘いつづけランキングトップを行く鈴木秀明選手。



▲セニア125ccについて、250ccクラスも余裕をもったのゴールイン！

R・ゴールド選手引退

来シーズンは
監督として活躍

ヤマハで70年度の世界GP 250cc級チャンピオンとなったR・ゴールド選手が今シーズンかぎりでのレーシング・ライダーとしての生活を引退すると発表した。

今年二十九才のゴールド選手が、レーシング・ライダーとしてデビューしたのは一九六一年、彼が十九才のときのこと。それから十年ちかくを、ヨーロッパ車で出場していたゴールド選手は、一九七〇年にヤマハモーターNV（オランダ）と契約、水を得た魚のごと

水をあげ、二五〇ccでは僅少差ながら堅実に首位を保っているだけに、残る三戦が大いに注目されているところである。

この'72全日本選手権モトクロスは、延期中の第10戦東北モトクロス（十一月十二日、仙台テクニカルハイランド）をもってすべて終了する。

く目覚ましい成績を重ねて、待望の250cc級チャンピオンを獲得したのであった。

その後は、常にヤマハでタイトル争いの常連ライダーとしてビッグレースに活躍、今シーズンはランキング三位を得た。

引退後のゴールド選手は、ヤマハモーターNVの広報関係の仕事に従事するほか、長いレース経験と知識を生かして、ヤマハレーシングチームの監督に就任、采配をふるうことになっている。

チリ—政府の 折り紙つき

かなりきびしい製品国産化の政策をとっている南米チリ—にも、ヤマハオートバイ、船外機は順調に輸出されています。

これらの製品はこの国では、公共的な仕事に使用されることがほとんどですが、ヤマハ製品の性能は政府の折り紙つきなのです。

現地の代理店バシフィコ社は、サンチャゴの中心市場で新しいセールスドライブを企画しています。(本社社屋④と社長とセールスオフィス⑤)



▼ナイジェリア▲ モーターショー



とてつもなく遠い国の感じがするアフリカ大陸西部のナイジェリアでも、ヤマハオートバイは着実に市場の人気を獲得しています。この地域ではオートバイは日常の実用的な目的に使われることが多く、ヤマハの軽排気量ロードモデルが、市場の花形的存在です。現地の代理店J・アレン社が最近ラゴス市で催されたモーターショーにヤマハの新型を展示して人気をあつめました。

好評のヤマハヘルメットに新型登場



衆議一決、仲間はみんなヤマハヘルメットで——売れゆき好調のヤマハヘルメットに待望のフルフェイス型が登場、またCX 300Pシリーズに色も鮮やかなメタルフレック塗装が追加され、いっそう売りやすくなりました。

ヤマハヘルメット
フルフェイスFF100
小売標準価格 1万5千円

日本人向きにデザインされた新しいスタイルが一大特長。内装も念入りな仕上げで、安全性を一段と高めました。色は白。サイズはS.M.Lの3種類です。



ヤマハヘルメット
CX 300P (メタルフレック4色)
小売標準価格 5千500円

メタルフレック塗装の鮮やかカラーに加え、縁どりに白線をひいてジェットラインを強調した新型です。チンガードがついたほかゴーグルバンド止めも装着しました。メタルフレック塗装はブルー、グリーン、ブラウン、オレンジの4色で、サイズはMとL。

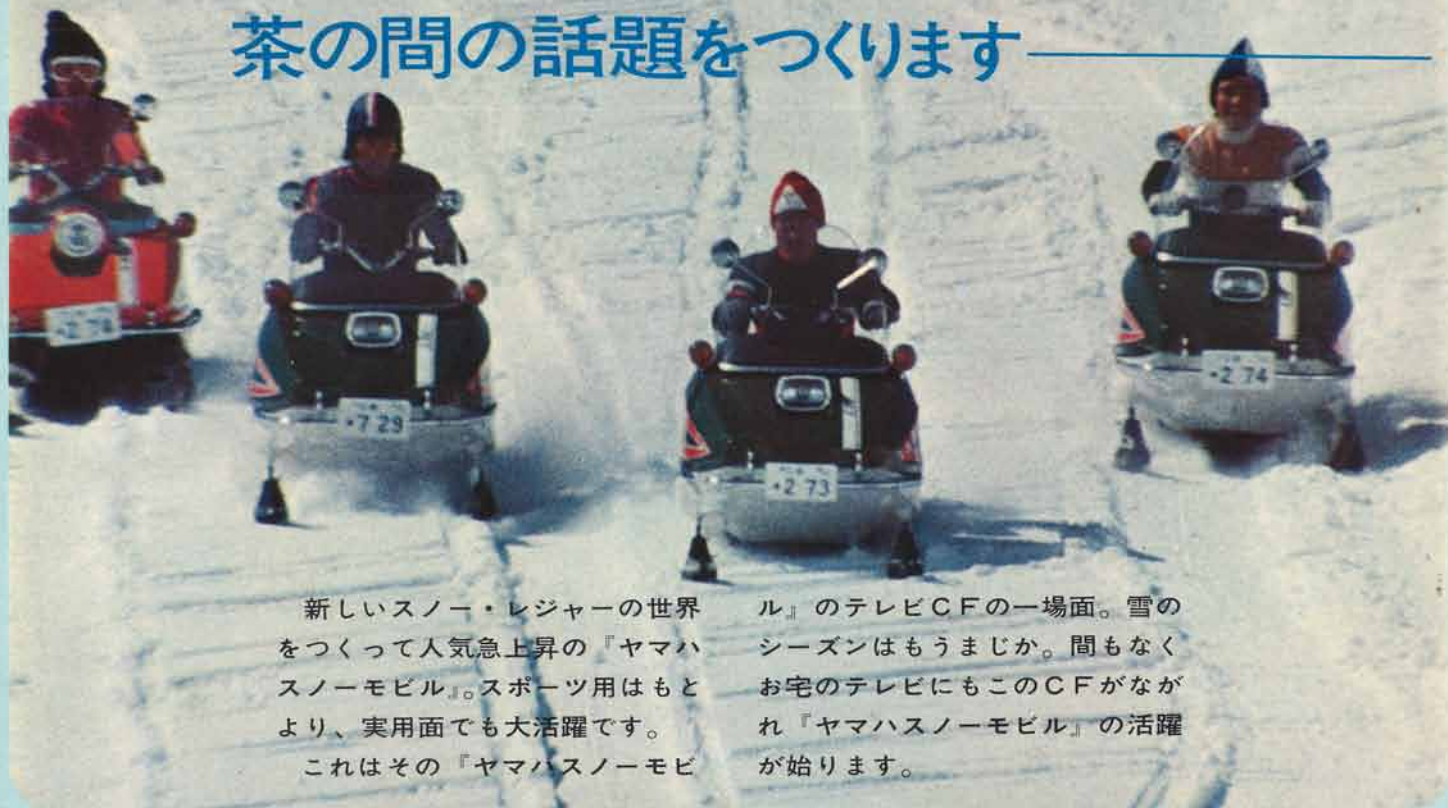
(MFJ認定品)



▶ ご迷惑をおかけしました
お詫びと訂正

前号うら表紙のヤマハ純正オイルの紹介広告において、「ヤマハ4サイクルオイル」の価格 500円 (1ℓ) が 350円と誤って表記されました。ご迷惑をおかけしたことをお詫びしここに1ℓ 500円と訂正いたします

雪のシーズンの人気者 『ヤマハスノーモビル』のTV・CFが 茶の間の話題をつくります



新しいスノー・レジャーの世界
をつくって人気急上昇の『ヤマハ
スノーモビル』。スポーツ用はもと
より、実用面でも大活躍です。
これはその『ヤマハスノーモビ

ル』のテレビCFの一場面。雪の
シーズンはもうまじか。間もなく
お宅のテレビにもこのCFがなが
れ『ヤマハスノーモビル』の活躍
が始ります。

